

令和4年2月22日

第32回 「芳賀・宇都宮基幹公共交通検討委員会（書面開催）」結果概要

- 期 間 令和4年2月2日（水）～2月10日（木）
- 形 式 書面
- 内 容 1 議 題  
・ 「都心部まちづくりビジョン」の策定について・・・資料1
- 結 果 各委員，了承

【意見及び回答】

【森本委員長】

- ・ 本ビジョンを今後策定予定の地域公共交通計画に反映させるようにしていただきたい。
- ・ 特に6ページのエリア別の将来像をもとに，L R Tの2次交通の在り方を検討することが重要だと思う。11ページのSTEP2（エリア別の方針等の検討）で記載されているが，公共交通政策との一体化において，交通結節点整備の進捗状況に合わせた段階的な計画が必要だと思う。

【事務局】

- ・ 今後策定予定の地域公共交通計画においては，ビジョンの内容と連携・整合を図り，エリア別の将来像を見据えながら，交通結節点等の整備の進捗状況に合わせたバス路線の再編や次世代モビリティの導入などについても検討していく。

【望月委員】

- ・ 全体としてまとまったビジョンとなっている。
- ・ 特に魅力的な拠点形成が重要であり，市民・事業者が積極的に動けるよう行政がしっかりと支援していく必要がある。
- ・ 一度計画が固まれば進捗の早いL R Tの駅西側延伸に合わせて，時間のかかる魅力ある拠点形成を実現するために，行政には支援のための行動を早期に展開することを望みたい。

【事務局】

- ・ 市民・事業者が主体的にまちづくりに取り組んでいただけるよう，ビジョンの共有化を図りながら，民間開発誘導に向けた支援策や街なかを使いやすくするルール等について検討していく。

**【長田委員】**

- ・ 行政の役割において、地元主体のエリアマネジメントを見据えた組織化や人材発掘・育成などの支援が盛り込まれているが、概ね10年という目標年次において、新たな地元組織の設立や担い手の発掘には時間を要することも踏まえ、既存のまちづくり団体などを活用するなどが必要だと思う。

**【事務局】**

- ・ 本ビジョンが対象とするJR宇都宮駅西側の街なかでは、地域の成り立ちなどから既存のまちづくり団体や商店街等が意欲的に活動していることから、こうした関係者や団体を中心にまちづくりの機運醸成に取り組んでいくとともに、更に多くの市民・事業者にも主体的にまちづくりに取り組んでいただけるよう、機運醸成に取り組んでいく。

**【行政アドバイザー】**

- ・ ビジョンは、“視覚的に”未来像を共有することにより関係者の推進力を高めるためのものなので、もっと視覚的な記載を増やしたほうがよい。
- ・ 全体的に現在の図や写真を拡大し、文章量を減らしたほうが、共感を呼べるビジョンとなるのではないかと（たとえば6ページ以降の掲載写真は4、5倍の大きさに拡大してよいと思う）。

**【事務局】**

- ・ ビジョンに掲載した将来のまちのイメージや取組の事例写真について、市民・事業者等と視覚的に共有しやすくするため、可能な限り拡大する。
- ・ 今後のビジョン共有化において、まちづくりのイメージやイラストなどを強調し、市民・事業者等に分かりやすく伝えていく。

**【行政アドバイザー】**

- ・ 副題をまちづくりの方針が分かるものに置き換えたほうがよいのではないかと。“うごくつながる～”のキャッチフレーズや、“各エリアでのストーリー性のあるまちづくり”のほうが、副題として適しているように思う。

**【事務局】**

- ・ 副題については、本ビジョン策定の趣旨を伝えるため、LRTを基軸とした公共交通と一体となった都心部の活性化を図るビジョンであることを表現したものである。
- ・ ご意見のストーリー性のあるまちづくり等のまちづくりの方針については、本ビジョンの特徴でもあることから、市民や事業者とビジョンを共有化する際に、その内容を発信していく。

**【行政アドバイザー】**

- ・ 4ページのLRT整備による生活の変化イメージだが、もっと困っていることに焦点を当てたら、より共感を呼べるのではないか。
- ・ 例えば、小学生・中学生の児童だけでの外出が容易になることが予測される。このことにより、習い事等の母親の送迎負担が減り、女性が働きやすくなることが予想される。など

**【事務局】**

- ・ 4ページのまちづくりによる市民生活の変化において、ご提案いただいた市民の生活を表現する内容を追加する（公共交通の充実により、「子どもだけでも利用しやすく（乗継しやすく）」移動できている様子と、母親が時間を有効に活用し、仕事や余暇を過ごしているイラストを盛り込む）。

**【行政アドバイザー】**

- ・ 8ページの取組の表に誰がやるのかの役割も記載すると行政以外もより当事者意識が湧くと思う（8ページと10ページを統合するイメージ）。

**【事務局】**

- ・ 8ページの「取組イメージ」は、まちづくりに携わる多くの関係者がビジョン実現に向けた取組を共有するため、都心部全体で統一感がある魅力あるまちづくりを推進していく上で参考となる取組を整理した。
- ・ 10ページの「市民・事業者・行政の役割」は、まちづくり方針の「多様な主体が連携したにぎわいまちづくり」に基づき、市民・事業者・行政がそれぞれ役割を担い合い、連携・協力しながら、主体的にまちづくりに取り組んでいくため、まちをつくる、使う、育てる、まちづくりを支えるという視点から、多様な主体の役割を明確化した。
- ・ 今後は、ビジョン実現に向け、多様な主体が連携した取組や各主体の役割を十分に共有しながら、官民協働のまちづくりを推進していく。

**【オブザーバー】**

- ・ まちづくりのためには宇都宮市周辺町村・周辺の県・都内からの誘客誘致が欠かせず、誘客誘致のためには広域連携及び情報発信が欠かせないと考えている。
- ・ 広域にわたる連携策（周辺町村・他府県からの誘致誘客）や広域にわたる情報発信の面で今後検討されること等があればご教示願いたい。

**【事務局】**

- ・ 本市では、北関東3県における中核市（宇都宮市、水戸市、前橋市、高崎市）や、栃木県央都市圏の市町（宇都宮市、鹿沼市、日光市、真岡市、さくら市、下野市、上三川町、芳賀町、壬生町、高根沢町）、広域観光団体等と連携・協力し、市町の魅力や観光資源のPR、都内でのマルシェ開催、Uターン就職促進の取組など、人・物・情報など様々な交流の活性化や魅力の発信を行っている。
- ・ 本ビジョンの実現に向け、企業誘致や周辺の県・都内からの誘客などは、都心部における多様な交流やにぎわい創出につながることから、広域連携及び情報発信の機会を通じて、都心部まちづくりの取組などを発信していく。

以上